

会 議 録

会 議 の 名 称	西東京市教育計画策定懇談会（第4回）
開 催 日 時	平成30年1月30日（火） 午前9時00分から午前10時45分まで
開 催 場 所	西東京市役所田無庁舎502会議室
出 席 者	<p>【委員】遠藤委員、服部委員、川村委員、三橋委員、田中委員、浅沼委員、本名委員、大橋委員、武藤委員、渡邊委員、石田委員、山村委員、伊藤委員</p> <p>【事務局】早川教育企画課長、等々力学校運営課長、内田教育指導課長、福田教育部主幹（教育指導課）兼）統括指導主事、清水教育支援課長、岡本社会教育課長、大橋公民館長、中川図書館長、宮本統括指導主事、和田企画調整係長、齋藤企画調整係主事、利根川企画調整係主事</p> <p>【傍聴人】1人</p>
議 事	<p>(1) 会議録の確認について</p> <p>(2) 西東京市教育計画策定のためのアンケート調査報告について</p> <p>(3) 計画策定におけるヒアリング調査の中間報告について</p> <p>(4) その他</p>
会 議 資 料	<p>資料1 西東京市教育計画策定懇談会第3回会議録（案）</p> <p>資料2 西東京市教育計画策定のためのアンケート調査報告書（案）</p> <p>資料3 教育計画策定にかかるヒアリング調査実施概要</p> <p>資料4 西東京市教育計画策定のためのヒアリング調査中間報告書</p> <p>資料5 教員アンケート集計（速報）</p>
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(1) 会議録の確認について</p> <p>2ページ目、「大人になろうとしている」の「としている」が2回入っている部分を修正し、承認を得た。</p> <p>(2) 西東京市教育計画策定のためのアンケート調査報告について</p> <p>事務局（委託業者） 小学生、中学生調査結果（資料2）について説明</p> <p>C委員 自分の頭で考えて行動できる、自分の意見をきちんと言える、社会の役に立てるなど、能動的に自分の人生を歩んでいこうという姿勢が見えてきている。</p> <p>B委員 自分に自信があることが高まっているのは、取組の結果ではないかと感じている。一方で、将来やりたい仕事はあるかということについて、やりたいことについて考えたことがないという回答が、小学校でも中学校でも一定数出ていることが気になる。人生や未来について考える機会があると良い。</p> <p>I委員 パソコンやインターネットの使い方について、小学生の使用率が増加であるにも関わらず、「特に約束していることはない」の割合が高いのは気になる。保護者への何らかの働きかけが必要ではないか。</p>	

J 委員

本校では、学校教育を通じて、スマートフォン等が今お子さんにとって本当に必要なのかを考えてもらうことや、保護者の責任としてルールを作成してほしいということを啓発している。学校としては、啓発することはできても強制することはできない。

K 委員

子どもたちの意識は、大人が思っているよりも高いが、動画投稿など、肖像権への意識は不十分なところもある。本校でも保護者会やセーフティ教室等で啓発している。

事務局（委託業者）

青少年、一般調査結果（資料2）について説明

G 委員

一般市民調査の問 11 生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験をどのように生かしているか、が、総じて前回よりもポイントが低くなっているのは非常に残念なところである。社会貢献や自分の人生を豊かにしてもらうために、公民館としても力を入れていくべきではないか。

E 委員

図書館について、確実に利用する頻度が減っている。小学校はかなり多いことから、本に親しんだ子どもが年をとって、読まなくなっているかもしれない。その分インターネット等の利用時間が伸びている。

B 委員

図書館の利用時間をもう少し伸ばしてほしいという意見がある。中学校や高校ではなかったが、部活等があると間に合わず、利用したくても利用できないのかもしれない。

座長

悩みや心配事があった場合の相談相手として、友達や両親が出てきているのは嬉しい。スクールカウンセラーの割合がかなり少ないが、この点はいかが。

H 委員

スクールカウンセラーに相談というよりは、友達や親の方が話しやすい。教室にスクールカウンセラーが来るなど、距離は縮まっているのかと感じる。

G 委員

スクールカウンセラーは中学校も小学校も週1回か。相談したいときにいないのではないかな。

J 委員

小学校は週1回である。5年生はスクールカウンセラーが全員面接を行い、人間関係をつくる取組もしている。

K 委員

中学校でも1年生はアンケートと全員面接を行っている。自分から相談に行くことが難しそうなときは、担任がつなぐなどしている。6時間でもいいので常駐するべきだと思うが、西東京市はスクールソーシャルワーカーの訪問もあり、小・中学校の体制はできているので

はないか。

高校になると生徒数が多くて、なかなかうまくいかない可能性がある。自由意見でカウンセラーのことに結構厳しいことが書かれているが、小・中学生とは違い、大人になってきているため、カウンセラーとの相性もある。

(3) 計画策定におけるヒアリング調査の中間報告について

事務局（委託業者）

ヒアリング調査中間報告（資料4）及び、教員アンケート集計（速報）（資料5）について説明

L委員

どの学校でも言語の問題で苦勞している子どもたちがいて、それをどうケアしていけばいいのか、70時間までの学校での個別指導以外はNPOが実施している日本語教室しかないのが現状。NPOを利用できている子は、そこが大きい存在になっていて、言葉だけでなく生活全般や心理的なことも含めて、サポートしている居場所になっている。市の教育の一部分として、一つのNPOだけに任せる状態でなく、前進していくことが必要。

G委員

先生へのアンケートが、とても画期的だった。教育委員会と学校が連携して、聞くだけ聞いて、終わりではなく、貴重な意見を生かすようお願いしたい。

A委員

保育の先生へのヒアリングで、子どもと向き合えない保護者がいると感じているとあり、学校の先生へのアンケートに家庭の教育力の低下が書かれている。休日に家族と過ごす子が増えているのにこのような答えになっていて、連動していないところが気になる。また、スマートフォンが登場して、一緒にいるのに皆がスマートフォンを見ているなど、人間同士の関わりの質的なところをつかんでいかないといけない。

I委員

子ども同士でコミュニケーションを図ったり、ストレートに自分を出したりできているのは、学童や児童館の場ではないか。放課後の子どもたちの集団の姿を、小・中学校の先生が情報を得られる体制をとっていくことは、これから必要ではないか。

A委員

私は保健係として、赤ちゃんの担当をしている。赤ちゃん健診を行う中で、10～20年前にはなかったことだが、「ミルクやおっぱいを与えるときには、スマホでなくお子さんの顔を見ましょう。」と話さざるを得ない時代になっているのも、子どもの育ちにつながってくる場所もあるのではないか。

F委員

日常生活で子どもを見たときも、今はみんなスマホで済ませ、面と向かって言えばいいものを、スマホのツールで話している。

座長

アンケートの結果を見ると、自分たちも含めて今の人たちの抱えている現代的な問題が絡んできて、同じコミュニケーションをとるにも、昔とは違う質の変化がきっとあるのではないか。そこに目を向けていかないと根本的な解決にならない。

D委員

アンケートにも出てくる、家庭の教育力の低下も同様に、言葉が漠然としているものも多くて、それを掘り下げていかないと見えない。また、先生が負担を感じている業務に保護者・PTA対応があるが、それが具体的にどんなことなのか、保護者も先生も、お互いに様子を見てしまい、本音で話せる場があったらいいと思う。このアンケートについても、もう少し詳しい本音が出せるようなものであったら、より具体的に解決していけるのではないか。

C委員

就学前教育プログラムの作成と書いてあるが、公立、私立の保育園、幼稚園の連携は実際にはない。弱みを見せない子どもが多いという意見があるが、これは乳幼児期に、どれだけありのままの自分を受け止めてもらえたかどうかということに関わってくる。西東京市として乳幼児教育をどうするのか、新しい教育計画にぜひ盛り込んでほしい。幼稚園と保育園がもう少し手を携えていかなければいけないし、小学校とも連携を取っていかなければいけない。いろいろな価値観が多様にあるのは大事だが、子どもたちが健やかに育つための保育の質を保ち、それを小学校の先生と連携していく体制をもう少しきちんと取らないといけない。

(4) その他

次回の日程は2月16日(金)

以上